

『個人的なことも社会的なことも 話し合う場所づくり』

ひとりひとりとの対話から広がるつながり、女性と仕事

2024年2月20日

わたしについて

竹中万季（たけなかまき）

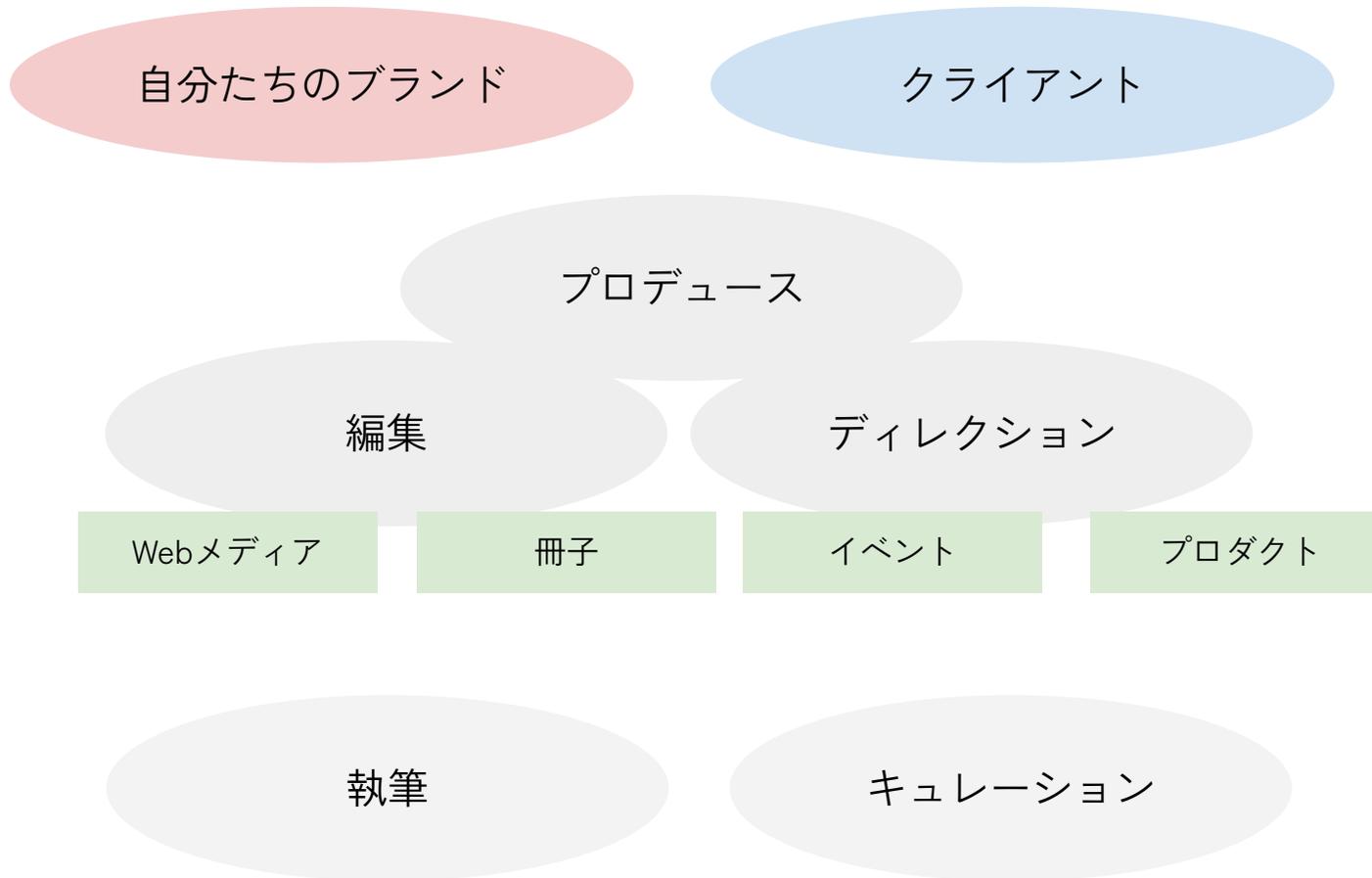


1988年、東京生まれ。編集者。小中高と都内の女子校に通ったのち、慶應義塾大学文学部美学美術史学専攻を卒業。その後、電通レイザーフィッシュ（現：電通デジタル）に就職。

デジタルマーケティングやWebディレクションなどに携わったのち、2015年にカルチャー系メディアを運営するCINRAに転職。カルチャーを軸にしたクライアント案件の企画・プロデュース、コンテンツ企画・記事制作などを多数担当する。2017年、同僚の野村由芽と共に「自分らしく生きる女性を祝福するライフ&カルチャーコミュニティ“She is”」を立ち上げ、ブランドリーダーとしてプロデュース・編集を行う。

2021年、野村と独立し、「me and you」を設立。「ここにいるわたしとあなたから、遠くのわたしとあなたへ」というメッセージのもと、当たり前とされているものを問い直す編集視点を軸に、メディア・コミュニティ「me and you little magazine & club」の運営や、社会が抱える課題について企業や団体とともに考えるプロジェクトに取り組んでいる。

どんな仕事をしているか？



me and youについて

me

and

you

わたしたちのこと♥

ここにいるわたしとあなたから、遠くのわたしとあなたへ

me and youは個人と個人の対話を出発点に、遠くの誰かにまで想像や語りを広げるための拠点です。当たり前とされているものを問い直す編集視点を軸に、メディア・コミュニティの運営や、社会が抱える課題について企業や団体とともに考えるプロジェクトに取り組んでいます。

more

お知らせ♥♥

お仕事♥♥♥

お問い合わせ♥♥♥♥

we are happy to send you our newsletters ♥ ニュースレターをお届けします ♥

about us♥

from "me and you" here to "me and you" afar

"me and you" is a place where we begin to expand one's imagination and narrative to someone far away using dialogues between individuals as a starting point.

more

news♥♥

works♥♥♥

for inquiries♥♥♥♥

me and you little magazine & club♥♥♥♥♥

twitter♥♥♥♥♥♥

instagram♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥ we are happy to send you our newsletters ♥ ニュースレターをお届け

me and you little magazine & clubについて



ここにいるわたしとあなたから、 遠くのわたしとあなたへ

me and you little magazine & clubは、「わたし」と「あなた」という小さな主語を大切にしながら、小さな違和感も幸福もなかったことにせず、個人的な想いや感情を尊重し、社会の構造まで考えていく場所です。

ひとりひとりの声や対話、作品を集めて記録する「little magazine」というマガジンと、安心して話しはじめることができ、信頼できる人が見つかるかもしれない「club」というコミュニティのふたつの軸で場所をつくっています。

<https://meandyou.net>



<メディア>

me and you little magazine

わたしとあなたの記憶と記録、 動き続ける世界の一角

me and you little magazineは、小さな声や、語られていなかったこと、ものごとの複雑さなどを重視しながら、変わりゆく自分や他者、世界を考えるきっかけとなる読み物をつくっていきます。「i meet you」「同じ日の日記」「創作・読考」「声のポスト」「わたしたちのリンク集」「わたしたちの辞書」「カルチャートピックス」などをお届けしています。

2022年2月にオープン。

<https://meandyou.net/>

<コミュニティ（有料メンバー制）>



me and you club

わたしとあなたの終わらない 思索とおしゃべりを

me and you clubは、曖昧さや迷いの過程、一人ひとりにとって心地よい速度を肯定することで、安心して話しはじめられ、信頼できる人が見つかるかもしれないコミュニティです。本や映画の話をしたりDIYを楽しんだりするクラブ活動、日常の違和感や社会問題への気づきを語り始めるイベントなど、生活も社会も地続きに一人ひとりが思考をめぐらせ、共有しながら、個人的なことと社会的なことについて考え、語る場所。

2022年2月にオープン。

<https://club.meandyou.net/>

me and you little magazine

すべての記事 | i meet you | 創作・論考 | 同じ日の日記 | 声のポスト | カルチャートピックス | リンク集 | and you | この場所について

インタビュー | 連載 | 本 | 映画 | ジェンダー | フェミニズム | 社会

miki yoshioka

you からのお知らせ 🍷 新緑の季節 🌿🍃 📖📖 イ・ランさん、「強くならないと生きられない社会」で問う。「あなたは怎么样って生きているんですか」

大学生から50代以上まで、年代やジェンダーを問わず下記のような関心を持つ方々が訪れてくださっています。

- 社会課題に対して意識を持っている人
- 映画や音楽、本やアートなどカルチャーを通じて物事を考えることが好きな人
- 個人の思いや自分が好きなものを大事にしている人

また、me and youでは、トランスジェンダー差別、性的マイノリティへの差別を含むあらゆる性差別、人種・民族差別、階級差別、病気や障害などに対する差別、職業差別、地域差別、容姿や外見による差別などすべての差別に対して反対する意志をもち、この場所を運営していることを掲げており、そうした思いを共にしてくださる方にお越しいただいています。

The screenshot displays the 'me and you' website interface. At the top, there is a navigation bar with a search icon and a 'me and you' logo. Below the navigation bar, several article cards are visible, each featuring a thumbnail image, a title, a brief description, and a date. The articles cover a variety of topics, including LGBTQ+ community events, cultural discussions, and personal reflections. The layout is clean and modern, with a focus on text and images.

このページをシェア

me and you
little museum

連載
オフ会@彗星の見える交差点
連載:プラトニックな光で満ちた窓が見えるよ / 水沢なお

このページをシェア

me and you
little museum

2023/12/20

本屋B&B(東京・下北沢):連載
「あの本屋に行こう」
「偶然的出会い」を街ゆく人の日常の中に生み出すべく手を尽くすこと

2023/12/20

わたしたちのスリープオーバー
ヒグチアイさんに聞く。「性にまつわるおすすめ作品」「不安なとき、どうしてる?」

『神風怪盗ジャンヌ』/自分が好きになれなかったものを常に探す

2023/12/15

SPONSORED: freee

WEEK
「途中でやめる」山下陽光が語る。好きなことで食べていくにはどうしたらいい?
「立ち飲み屋や立ち食いそばのファッション版をやっているような感じかもしれません」

2023/12/15

me and you
little museum

わたしたちのスリープオーバー
たかはしほのかさんに聞く。「性にまつわるおすすめ作品」「不安なとき、どうしてる?」

大森靖子『絶対少女』/本当に今、自分に必要な不安なのか問ひかける

2023/12/15

me and you
little museum

わたしたちのスリープオーバー
「クリスマスのお過ごし方って?」
Homecomingsのお二人と「クリスマス」についておしゃべり

2023/12/13

me and you
little museum

わたしたちのスリープオーバー
「彼氏いる?彼女いる?と聞かれて嫌だったことある?」
恋愛の話をしたい人、したくない人、したいとき、したくないとき

2023/12/13

クラウドファンディングにて立ち上げ

メディア／コミュニティを立ち上げるにあたり、クラウドファンディングを実施。

目標金額の350万円を上回る結果となり。

また、アーティスト・クリエイター・タレント、研究者・アクティビストなど、表現・芸術・創作や社会問題にかかわるさまざまな方々に賛同人になっていただき、応援コメントをいただきました。

<https://motion-gallery.net/projects/meandyou>

▼賛同人の方々

赤澤える／燈里／aggiiiiii／秋田祥／朝弘佳央理／朝吹真理子／安達茉莉子／あっごゴリラ／あないすみやーそこ／阿部洋子／安藤晶子／安東嵩史（TISSUE Inc.）／飯嶋藍子／飯田エリカ／池野詩織／石山蓮華／伊波英里／今橋愛／YeYe／石澤萌／石田真澄／石村美沙都（J-WAVE）／市川渚／市原えつこ／伊藤絵美／伊藤紺／いとうひでみ／犬山紙子／井上花月（Laura day romance）／植本一子／UMMMI.／遠藤麻衣／大島智子／大谷明日香（REING）／丘田ミイ子／小澤みゆき（作家の手帖）／枝優花／エミリー／大北栄人（明日のアー）／大崎清夏／大堀晃生／長田杏奈／小澤身子和子／小谷実由／柿沼あき子／笠井康平（作家の手帖）／カシワイ／カトートシ／カナフユキ／Kaho Iwaya（opnner）／川上未映子／苺田梨都子／きくちゆみこ／岸本佐知子／北田瑞絵／黄身子／Camp Inc.／金城小百合／木村びおら／楠田ひかり／工藤まおり／黒井いつみ／劇団雌猫／小泉綾子／後藤あゆみ（bouquet TOKYO）／小菅くみ／小林エリカ／こばやしのだみ／小指（小林紗織）／合田文（パレットーク編集長）／強瀬早穂莉（J-WAVE）／近藤佳奈（fermata inc.）／最果タヒ／坂上陽子／相楽園香／佐久間裕美子／zaziquo／佐藤文香／佐藤まりか／猿田妃奈子／澤木美奈（Camp Inc.）／塩川いづみ／塩塚モエカ／芝山有香／島根由祈（YUKI SHIMANE）／清水淳子／祝茉莉／白石洋太／辛酸なめ子／菅原万有／杉田ばん／鈴木みのり／生物群／瀬下翔太／惣田紗希／ソノダノア／高木絹子（J-WAVE）／鷹取愛（山ト波）／武田砂鉄／武田俊／竹田ダニエル／武居詩織／橘優子（花屋「橘」）／たなかみさき／田中菜裕／多屋澄礼／垂水萌／チーム未完成／チョーヒカル／つめをぬるひと／DAY・DREAM／nene／寺尾紗穂／寺原真希子／寺本愛／富沢櫻子（ekot spectrum works）／ドミニク・チェン／NINE STORIES かとうさおり／中里虎鉄／長島有里枝／永原真夏／永峰拓也／中村秀一（SNOW SHOVELING）／中村桃子／夏目花／七／7A／西口想／能町みね子／灰色ハイジ／はくる／羽佐田瑠子／秦レンナ／初谷むい／花盛友里／林央子／はらだ有彩／haru.（HUG）／肥高茉実／日比樂那／平岩壮悟／平山潤（NEUT）／藤岡みなみ／藤澤ゆき（YUKI FUJISAWA）／藤原麻里菜／古本実加／穂村弘／堀静香／前田エマ／牧村朝子／松井友里／Marina Gokan（GRRRDEN）／万力春乃／見汐麻衣／MIOKO／MICO／水内実歌子／みたらし加奈／MIDORI!／宮崎智之／三好愛／麦島汐美／めぐみあゆ（BROTHER SUN SISTER MOON）／八木あゆみ／山口祐加／山崎まどか／山田由梨／山本華／yushokobayashi／横井もも代／横田大（Camp Inc.）／よしいちひろ／Yoshiko Kurata／吉野舞／Riku（REING）／龍崎翔子／Ryoko Kuwahara（NeoL editor in chief）／脇田あすか／The Wisely Brothers／和田彩花／和田朋子／

あらゆる個人の祝福を考えるメディア・コミュニティ「me and you」の立ち上げをクラウドファンディングで実現！

MotionGalleryについて

プロジェクトを探す プロジェクトを始める

MOTION GALLERY
クラウドファンディング・プラットフォーム

me and you

わたしもあなたも生きている心地を。
対話から始める「me and you」の新メディア・コミュニティ

東京都 コミュニティ

コレクター
423人

現在までに集まった金額
4,140,457円

残り日数
0日

FUNDED

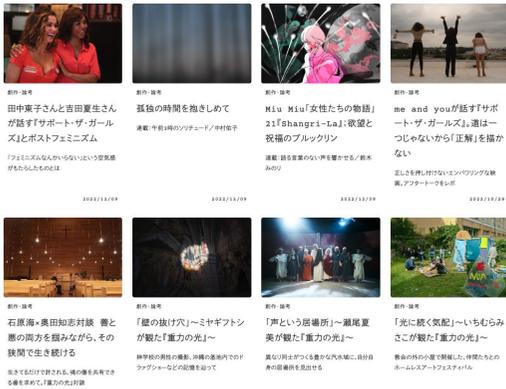
このプロジェクトは、目標金額3,500,000円を達成し、2022年2月10日23:59に終了しました。

コンテンツ

「個人的なこと」と「社会的なこと」の両方を考え、行動するためのさまざまなコンテンツを企画・制作。
 ひとりのオピニオンだけではなく、複数の人たちから声を集め、
 「手を取り合いながらともに考える場」を生み出し、発信をおこなっているのが特徴です。



i meet you：専門家や研究者に学びながら me and you という場所を耕していくための枠



創作・論考：インタビューや対談に加え、詩人・歌人の方による創作、作家による連載企画なども実施。即時性だけではなく「創作・論考」がもちえる長い時間軸を大切にするような企画枠。



同じ日の日記：さまざまな場所に生きる、働き方も暮らし方も異なる個人に、異なる場所の同じ日の日記を書いてもらう。違うことと、同じこと、それぞれを重ねることができる。



カルチャートピックス：自分たちが影響を受けてきた／好きな芸術・文化のイベント情報を紹介する枠。文化や芸術は社会にオルタナティブな可能性を提示するものでもあるという意思も込めながら。



声のポスト：同じテーマであってもたった一つの正解があるわけではないはず。一人ひとりの異なる考え方を並べてみることから、ものごとを考え始めたいと考え、一つのテーマをもうけ、複数名を集める企画枠を用意。公募も実施。

わたしとあなたのリンク集

必要なものにも関わらず、ほしいウェブサイトを紹介するリンク集。性暴力・性犯罪、働き方・仕事、ジェンダー・セクシュアリティ、文化・芸術ほか、カテゴリは随時更新していきます。



わたしとあなたのリンク集：問題に直面したときの具体的な手助けとなる支援・サポートの企画として。

インタビュー記事の例

このページをシェア



me and you club
little magazine

伊藤万理華さんが語る。「ちゃんと自分のことが嫌い」なまま、自分を大切に生きて

「わたしにはなにがあるんだっけ?」「なにもないかもしれない」の先に

取材:文:野村由芽
写真:小林真梨子
ヘアメイク:神山友香
スタイリスト:和田むり

2023/12/8

インタビュー 映画

SHARE: URLをコピー

このページをシェア



me and you club
little magazine

川上未映子さんに聞く。40代以降に訪れた心身の変化と、光がきれいな今日を思いだせること

今をなんとか懸命に、迷いながら生きていただけ

取材:文:野村由芽
写真撮影:池山礼子
編集協力:日比家都

2023/9/22

インタビュー 音楽

SHARE: URLをコピー

このページをシェア



me and you club
little magazine

斎藤真理子×中村佑子 煌々とした蛍光灯では照らせない声に耳を傾ける

韓国文学翻訳者と、社会からかき消されそうな存在の声を聞く作家

取材:文:野村由芽
写真:中島山貴み子
編集協力:桜口家(河出書房新社)・青木佑

2023/8/4

インタビュー 本

SHARE: URLをコピー

「話を聞く」ことは、日常のそこそこにあるありふれた行為ですが、「聞かれていない」という思いが心を震わせることがあります。そう考えると「聞く」を見つめなおすことが、人の想いや存在がそこに「在る」ことを肯定する行為にもつながるのかもしれない。

このページをシェア



me and you club
little magazine

金子由里奈×高島鈴 「わたしたちは全然大丈夫じゃない」、それでも生きていく

『ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい』監督と元同居人のライター。生を肯定する表現者たち

取材:文:井戸田紀寛
撮影:池野純輔
編集:竹中芳季

2023/4/21

インタビュー 映画 本

SHARE: URLをコピー

映画監督の金子由里奈さんと、ライターでありアーカイブフェミニストの高島鈴さん。同じ年に3日違いで生まれたという縁の二人は、お互いの作品について深い敬意を表現者どうしであり、ともに暮らした経験を持つ同居人でもあります。

このページをシェア

I meet you



me and you club
little magazine

世界や他者の「わからなさ」に言葉で向き合う穂村弘さん。夜中に水槽を運ぶ人へのシンパシー

抽象的、断片的、暗示的、象徴的な言葉が世界を組み替える可能性

取材:文:松平直美
編集:野村由芽

2023/2/13

インタビュー 音楽 本

SHARE: URLをコピー

社会のことから、ごく個人的なことまで、me and youがこの場所を創るために考えを深めた「さつ火」をめぐる対談シリーズ、「I meet you」、歌人、エッセイスト、批評家、絵本の翻訳などさまざまな領域で活動する穂村弘さんにお話をうかがいました。このテキストは、me and youが制作中のブック(クラウドファンディングの支援者の方々へのリターン)の他、書店でも販売予定)にも掲載予定です。

ニュース 2024/2/5(Mon) 19:07:33
2024/01/30 『同じ日の日記』で、1月31日の日記を乗換します
2024/01/26 HOTEL SBE, KYOTOとのコラボレーション「me and you and SBE」5開催
2023/05/13 me and youの小な本me and youの日記文通 message in a bottle! が完成る一部書店で販売開始

カルチャートピックス
2024年2月号
あっこりり(her LOVE MY CHOICE)
あないずみーやとこ(faith) ai-bulbul プルプルのように
有実あみこ(SINA SIOGA)新作発表会「コアラの人」
日本の女性検撰人(2)——1970-80年代
ゴースト・トピック「Here」

..>>見る

このページをシェア



me and you club
little magazine

アナマリア・ヴァルトロメイが語る。女性や女優の身体に映し出された幻想からの解放

映画『あのこと』主演俳優に、山崎ほどかインタビュー

取材:文:山崎ほどか
撮影:永藤拓也
編集:野村由芽

2023/12/21

インタビュー 音楽

SHARE: URLをコピー

日記の例



猫たちの2022年2月22日/
近藤聡乃

2022年2月22日(火)の日記

2022/03/24



布団カバー／和田彩花

2022年2月22日(火)の日記

2022/03/29



大人になっても正月がこわい
／永井玲衣

2022年1月1日(土)の同じ日の日記



「歌のあるところに希望がうま
れる」／寺尾紗穂

2022年3月11日(金)の日記

2022/06/15



坂の途中の水仙の花、ずっと
まえに見た花／小林エリカ

2022年3月11日(金)の日記

2022/05/11



主に八戸にいた／能町みね
子

青森にプチ移住。トラベラーズノートに郵便
局の風景印を押しながら、街を歩く

2022/11/25



誰にも出さない手紙と、見せ
られる日記／たなかみさき

私の日常は見ている人にとっては非日常なの
かも？

2023/11/14



酒とは一瞬のきらめきを手に
するために／藤原麻里菜

頭のなかに浮かんだ不必要な物をつくる「無
駄づくり」の作者

2023/01/16

連載記事の例

me and you club little magazine



OH! MY BOOKS (東京・幡ヶ谷): 連載「あの本屋に行こう」

おさまりの定食屋さんみたいな場所になれたら

編集: 久保山 穂
リード文: 野村由芽 2024/1/30

【連載】 連載: あの本屋に行こう

SHARE: URLをコピー

一冊の本に出会うことは、新しい扉をひらくこと。たとえ扉の心にもやもやと霧がかかっているようなとき、世界の未知の扉面に手を伸ばしたいとき、旅に出たとき、いつもは歩かない街に行ってみたくてとふと思ったとき……。そんなとき、本屋を訪れてみるはいかがでしょう？

この記事では、me and youがおすすめしたい本屋さんをご紹介します。me and youが出版している小さな本を取り扱ってくださっている独立系の書店を中心に、自分の意欲でお店を立ち上げたり、心地よい方法を日々工夫しながら、その土地に根づいた場所づくりを行っているお店たち。つくり手の表情が見える本屋は、そこに集まった人たちが想いや

me and you club little magazine

前田エマ、韓国の服にあう。ニッポブランド「MISU A BARBE」キム・ミスさん

連載: 前田エマ、韓国の服にあう

文: 前田エマ
編集: 野村由芽 2024/1/31

【ファッション】 連載: 前田エマ、韓国の服にあう

SHARE: URLをコピー



me and you club little magazine

能町みね子さんと話したい。「生きていくの大変じゃないですか?」

連載: 能町みね子さんと話したい。「生きていくの大変じゃないですか?」

文: 鈴木みのり
撮影: 森島智晴
編集: 野村由芽 2023/11/2

【インタビュー】 連載: 能町みね子さんと話したい。「生きていくの大変じゃないですか?」

SHARE: URLをコピー

「生きていくの大変じゃないですか?」——そんな家感を出発点に、作家・ライターの前田エマさんがこの社会で生活し、生き延びていくための方法を、さまざまな会いたい人に関心に行く連載が始まりました。



me and you club little magazine

恋愛関係なしで、パートナーシップを築く実験

連載: 呼びよまない暮らし / 星野文月・有吉宣人

文: 撮影: 星野文月、有吉宣人
連載ビジュアル: 星野文月
編集: 竹中芳季 2023/7/27

【連載】 連載: 呼びよまない暮らし / 星野文月・有吉宣人

SHARE: URLをコピー



松本市で文筆を書きながら暮らしている星野文月さんと、俳優・ドラマタレント・演劇ワークショップなどの活動を行っている有吉宣人さん。4月から松本で同居を始めることになった二人は、「恋愛関係ではない」という前提条件をお互いに交わして暮らしています。「男女が共に暮らし」ということが当たり前になり、恋愛関係と結びついているとされがちな

me and you club little magazine

記憶のコルク栓

連載: 午前3時のソリチュード / 中村佑子

文: 撮影: 中村佑子
編集: 谷口寛 (河合書房新社)、野村由芽 2023/2/16

【本】 連載: 午前3時のソリチュード / 中村佑子

SHARE: URLをコピー

早めに寝遅れて、真夜中にも目覚める午前3時。映像作家の中村佑子にとってその時間は、日常の雑事や役割から解き放たれ、自分の中心と向き合う大切なひととき。そんな「午前3時」をテーマに、中村さんに日々のモノローグを綴っていただきます。母である属性を抱えながら生きる、ひとりの女性の折々の記録。ぜひお楽しみください。

パソコンがたちあがる時間を待たずに、キーボードに指をあてたまま、カタカタさせていた。ちょうどそのとき、ある曲がiPhoneの環

me and you club little magazine

オフ会@彗星の見える交差点

連載: プラトニックな光で満ちた恋が見えるよ / 水沢なお

文: 撮影: 水沢なお
編集: 青真文(トロンキア)、野村由芽 2023/12/28

【エッセイ】 連載: プラトニックな光で満ちた恋が見えるよ / 水沢なお

SHARE: URLをコピー

中原中也賞を受賞した第一詩集『美しいからだよ』に続き、『シー』『うみみだい』を発表している詩人の水沢なおさん。自分と他者の名づけようのない関係性や、人々ではないものを等しく愛し、思う気持ち、「産む」という行為へのアンビバレンスなどをテーマに言葉を磨く、水沢なおさんのエッセイ連載が始まりました。

インターネットが身近にあった小学生時代からずっと見つめてきた自分の輪郭や、他者とのあいまい。そこにたちのぼる、プラトニックな光とは……



タイアップ記事の例



me and you club



me and you club

わたしとあなたの終わらない 思索とおしゃべりを

me and you clubは、曖昧さや迷いの過程、一人ひとりにとって心地よい速度を肯定することで、安心して話しはじめられ、信頼できる人が見つかるかもしれないコミュニティです。本や映画の話をしたりDIYを楽しんだりするクラブ活動、日常の違和感や社会問題への気づきを語り始めるイベントなど、生活も社会も地続きに一人ひとりが思考をめぐらせ、共有しながら、個人的なことと社会的なことについて考え、語る場所。

2022年2月にオープン、承認制、有料（月800円または1600円。一部無料のプランもあり）。現在150人以上の方が参加されています。

<https://club.meandyou.net/>

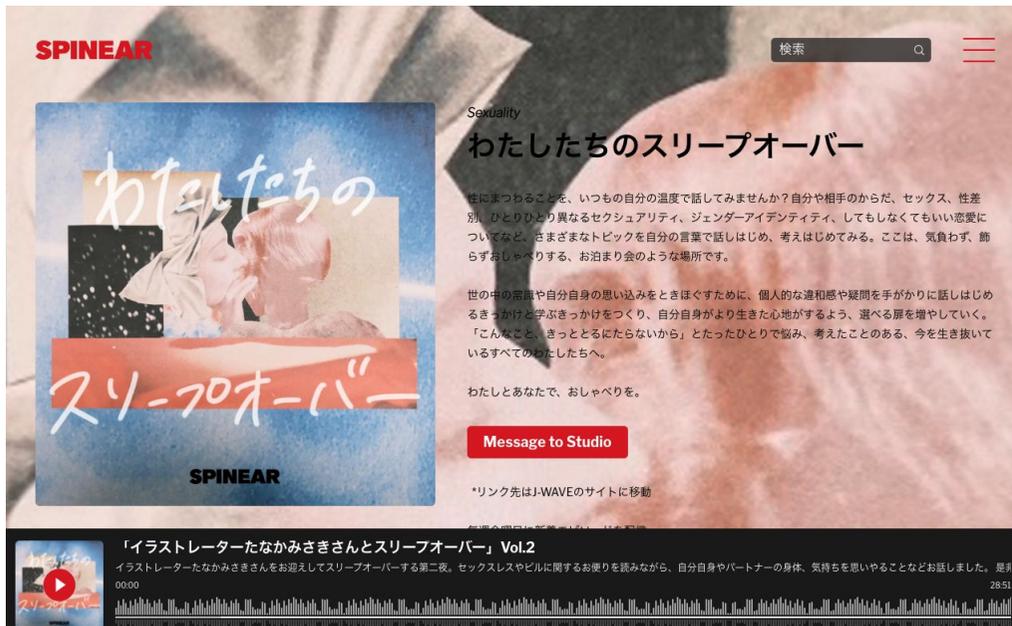
J-WAVE

わたしたちのスリープオーバー

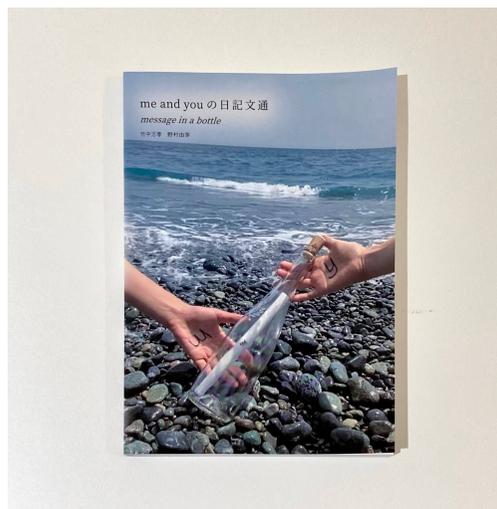
Podcast番組『わたしたちのスリープオーバー』をme and youが企画・制作。この番組では「性にまつわることをいつもの自分の温度で話しはじめてみる」をテーマに、自分や相手のからだ、セックス、性差別、ひとりひとり異なるセクシュアリティ、ジェンダーアイデンティティ、してもしなくてもいい恋愛などについて、おおよそ月ごとに1つテーマを設定し、普段から個人的な違和感や疑問を抱いているゲストや専門家を招いて、「対話」と「学び」を軸に番組を構成しました。

誰と生きるか、どこで暮らすか、どうやって働くか、それらは人間が生きていく上での根本的な問いですが、20～30代を迎えると、さらに結婚や子どもをもつことの有無といった「ライフステージ」の選択（そこには制度上の問題で「選択できない」ことも含まれます）を多かれ少なかれ迫られることとなります。『わたしたちのスリープオーバー』では、その点において人生が大きく変化する状況にある20～30代の方々に届けることをもっとも意識しながら、個人の生き方が無数に存在するように、性にまつわる考え方も人の数だけあり、その考えのひとつひとつを尊重することを前提に番組を制作しています。

<https://spinear.com/shows/our-sleepover/>



本の出版・執筆



- ・ 『わたしとあなた 小さな光のための対話集』

フェミニズムやクィアの表象、メンタルヘルス、マチズモ、戦争、差別といったテーマをはじめとして、それぞれの分野で研究や発信を行っている方々との対話を収録した本。

- ・ 『me and youの日記文通』

me and youが隔週金曜日にお届けしているニュースレター「message in a bottle」で連載中の「日記文通」。me and you竹中万季・野村由芽がそれぞれ日記を書き、お互いの日記にお便りを書いてきた2021年4月から2023年2月までの記録をまとめた記録。

- ・ 『わたしを覚えている街へ』

三軒茶屋にある書店、twililghtから刊行された本。三軒茶屋に3歳から30歳くらいまで住んでいたme and youの竹中万季が、twililght web magazineでの連載をきっかけに、近いようで遠かった三軒茶屋と新しい関係を築いていく。

スマルナ「#しかたなくない」雑誌制作

ピルのオンライン処方サービス「スマルナ」を運営する株式会社ネクイノと一般社団法人渋谷未来デザインが立ち上げたプロジェクト「#しかたなくない」。me and youは、2021年12月に第一号として制作された本プロジェクトのフリーマガジンの編集・制作に携わりました。

生理や避妊、性にまつわるさまざまなことをはじめ、学校や仕事、社会のことに対しても、気づかぬうちに「しかたない」と諦めてしまっているものがたくさんある。そんな一人ひとりの「しかたなくない」を可視化し、マガジンやイベントなどのさまざまなコンテンツで発信していくこのプロジェクト。マガジンは渋谷109前でも配布され、大きな反響を呼びました。ジェンダーや性を取りまく課題に興味がない人にも届く間口をつくりたい、ポップカルチャーと絡めた企画も入れていきたい、教科書っぽく見えないようにしたい……などの与件を踏まえながらチームで議論を重ね、構成やコンテンツの方向性の議論から参加しました。

(デザイン：上西祐理)



学びを見つける、
わたしがみつける



新しい季節が過ぎていき、実りの季節がやってきた。
寝け放けた心とからだをいたわって、
ゆっくり深呼吸して。
自分を見つける時間をつくりませんか？

今の自分と向き合って、少し先の自分を想像してみる。
「こうありたい」と願う姿がもし浮かんだら、
近づぐために、できることを考えてみたい。

2022 autumn lumine ogikubo

本を読む。勉強する。新しいことや、
興味があったことをやってみる。
小さなことから始めていい。何歳からはじめてもいい。
心地よい学びのかたちを見つけることは、一生の味方になる。
自分が求めるほうへと、変化するために学んでいる。

学びはきっと、わたしを新しい世界に連れて行く。
前よりも好きな、わたしに出会えるといい。

ルミネ荻窪 年間のリーフレット制作

2022年度のルミネ荻窪のリーフレット制作を年間で制作いたしました。クライアントが求めるターゲット層や、打ち出していきたいテーマに沿って、コンセプトを設計。毎回のコピーライティングや、デザイナーやイラストレーター、モデルの選定のほか、スタイリングをいれた撮影企画や、エッセイ、商品紹介など幅広いコンテンツを展開。冊子を目当てに店頭を訪れる方も数多く、人気の企画となりました。

(デザイン：栗原あずさ)





MEGLY&CO



地球と自分のためにできることって？『アースデイ東京』に聞く



xiangyu & 樹木医・片岡日出美と話す。樹木と健やかに生きていくためにできること



MEGLY&CO オウンドメディア立ち上げ・コンテンツ企画編集

MTGによる炭酸ブランド「MEGLY」のオウンドメディア『MEGLY&CO』の立ち上げに向けた企画を行いました。また、メディア内の一部記事の企画・編集・制作を行っています。

MTGは美容機器と化粧品を融合した商品を開発する美容ブランド「ReFa」などを生み出してきた会社です。あらたに生まれた「MEGLY」は、ウルトラ炭酸のテクノロジーをもとに一人ひとりが自分を大切にすることを願うセルフケアブランド。「自分を大切に、みんなを大切に」「こころ、からだ、人、社会、地球、様々なめぐりをよくして、みんなが光る世界と未来を目指す」というメッセージを掲げています。

男性・女性・ノンバイナリーなど問わず多様なジェンダーの方に届けていくためにデザインなども考慮してつくられていることや、環境負荷の少ない選択をするためにできることは何なのか真摯に向き合っているブランドの意志に共感し、その思いをプロダクトだけでなくメディアを通じて届けていくために企画に携わることになりました。

個人的なことと、社会的なこと

竹中の興味関心と仕事のこれまで



中高生時代

- 小中高12年間女子校に
- 内気な性格、誰かと行こうことが得意ではなかった
- インターネットが好き
- 音楽や映画、本などのカルチャーに救われた経験



大学時代

- イベントやフリーペーパーをつくるサークルへ
- 美学美術史学専攻、アートイベントの広報や展示企画などに参加
- イギリス留学
- 編集など、興味があることにどんどん試みしてみるように



広告業界へ

- ネット好きが興じて、デジタルエージェンシーへ
- 大きなプロジェクトに関わり、複数人でものごとをつくる面白さを知る
- 深夜まで働く日々
- 好きなものを忘れて「普通」を考えるなかで生じた違和感



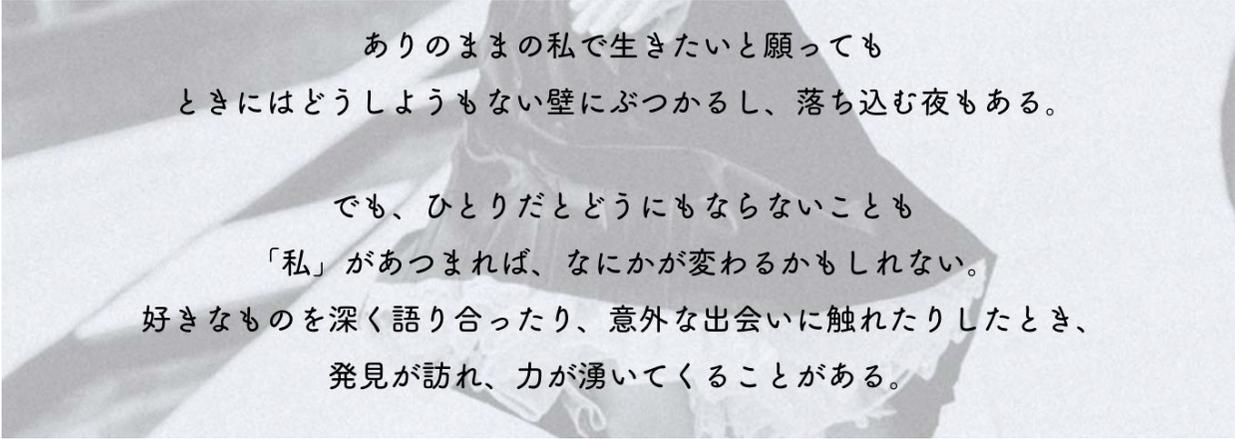
CINRAに入社

- 今までの経験を活かしながら、編集者への道へ
- 好きなもの、自分を活かしてくれたものが仕事に接続
- 引き続き、深夜まで働く日々



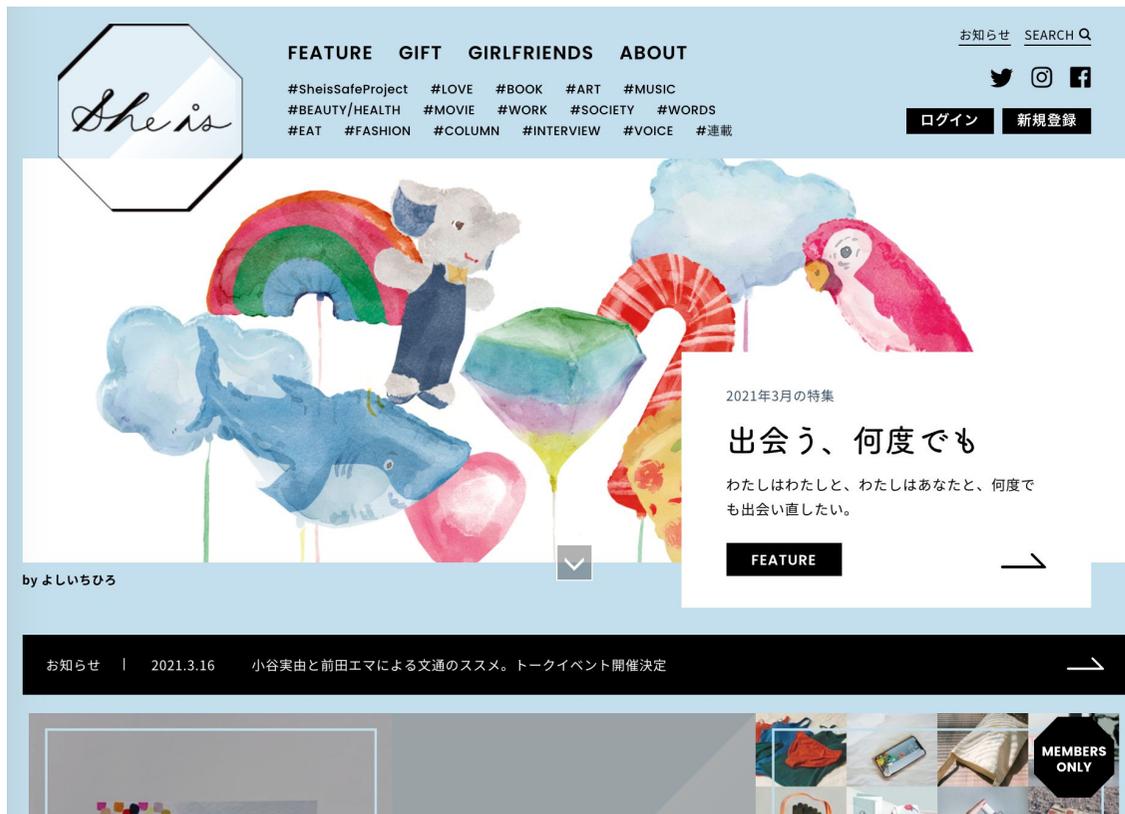
She isの立ち上げ

- 同僚との対話から始まった場所
- 押し付けられる「普通の女性像」への違和感と、映画や本や音楽などが教えてくれたもの
- 会社に「こうした場所が必要だ」と提案し、新規事業として2017年にスタート



ありのままの私で生きたいと願っても
ときにはどうしようもない壁にぶつかるし、落ち込む夜もある。

でも、ひとりだとどうにもならないことも
「私」があつまれば、なにかが変わるかもしれない。
好きなものを深く語り合ったり、意外な出会いに触れたりしたとき、
発見が訪れ、力が湧いてくることもある。



She is

<https://sheishere.jp/>

2017年9月、me and youの竹中・野村でCINRA社内の新規事業として立ち上げ。She isは、自分らしく生きる女性を祝福するライフ&カルチャーコミュニティをタグラインに、女性をとりまくカルチャーや思想を伝える「ウェブマガジン」と、有料メンバーにお届けするコミュニティサービスを軸にしたコミュニティメディア。

一人ひとりがその人らしいかたちで存在し、生き方や選択を自分で肯定していけるようになるために。ときめきや美しさを愛でる心を大切に、ときには詩的な感覚を通じて、社会や自分自身を問いながら、自由にのびのびと生きていく方法を育てていく場所です。

- ・特集を軸にしたウェブマガジン
- ・300人を超えるGirlfriendsとの深いつながり
- ・全国にいる1000人以上のMembers（会員）とのコミュニティ
- ・文章、作品、プロダクト。多様な表現

などを特徴とし、2017年に世の中の流れに先駆けてジェンダーの問題を取り上げたことや、サブスクリプションモデルを取り入れたこと、アーティストや文筆家など様々な領域で活動する女性たちとの継続的で深い関係性などが注目を集めました。

「me and you」では、この「She is」で大切にしてきた考え方や手法をあらためて見つめ、活かしながら、新たなメディア作りを行っていきます。

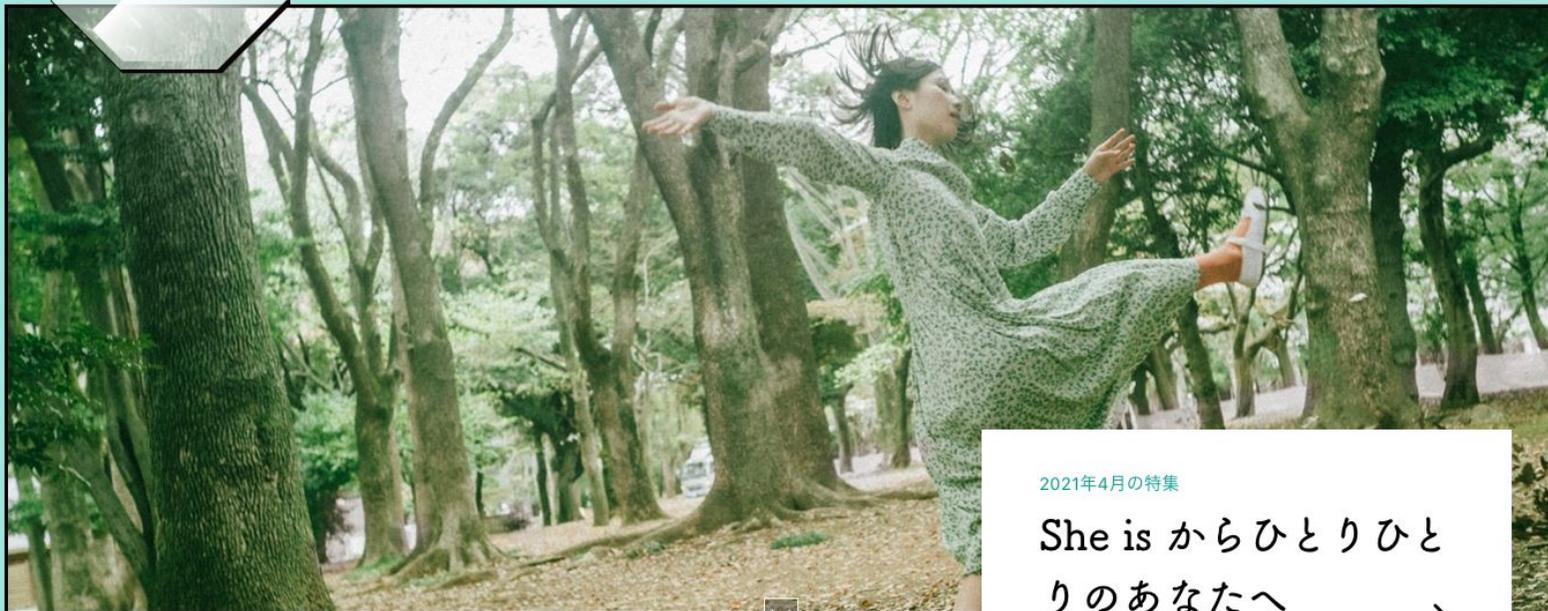


FEATURE GIFT GIRLFRIENDS ABOUT

[お知らせ](#) [SEARCH](#)



#SheisSafeProject #LOVE #BOOK #ART #MUSIC
#BEAUTY/HEALTH #MOVIE #WORK #SOCIETY #WORDS
#EAT #FASHION #COLUMN #INTERVIEW #VOICE #連載



2021年4月の特集

She is からひとりひとりのあなたへ

Dance: Nao Yoshigai, Photo: Takuya Nagamine, Styling: Miri Wada

お知らせ | 2021.4.1 【大切なお知らせ】2021/3/31をもってShe isはサービス終了・更新停止いたしました





FEATURE GIFT GIRLFRIENDS ABOUT

#SheIsSafeProject #LOVE #BOOK #ART #MUSIC
#BEAUTY/HEALTH #MOVIE #WORK #SOCIETY #WORDS
#EAT #FASHION #COLUMN #INTERVIEW #VOICE #連載

お知らせ SEARCH



2017年9・10月の特集

「未来からきた女性」

同じ時代を生きながらも、
まわりよりちょっと光る女性というのは
過去にも現在にも、きっと未来にも、いるのだろう。

彼女が見ようと願った行為によって
あるいは、彼女が見たかった世界のなかに
今、私たちが生かされているのだとしたら。

その人はきっと「未来からきた女性」だ。



2018年7月のギフト

飯塚莉さんとつくった表紙に執筆にぴったりのポーチ、小島実由さん、
*magamagamiさんによる限定マップ、ピロピロラップ「She is 180P
初心」、ネイル「Night trip navy」



2018年6月のギフト

イラストレーターのmikkoさんとつくった、友達にあげるための2枚のハン
カチ、デザインが素敵な「Monday」の限定とオリジナルコースター、特集カ
ラニと連載したShe is ネイル他



2018年5月のギフト

エヒラチナエさんによる刺繍トートバッグ、クラフト・エワング書斎のポ
ストカード、ユークリッドライフフラワー、お風呂の特設を記事する人気別、
ひだまり色したネイルなど



2018年4月のギフト

ほらた有梨さんとつくった風通しのいいトランクス、いとうひでみさんによ
る「陽気の四角ハネトラップ」、openによる花葉のタトゥーシール、安
心で美しいローションほか



2018年3月のギフト

「HighJeri magazine」編集長のharuさんとつくったワッフル素材のタン
クトップ、カンフイさんによる可愛いイラストのカード、森原真貴さんの手がけた
コースター、限定のお茶、ネイル、



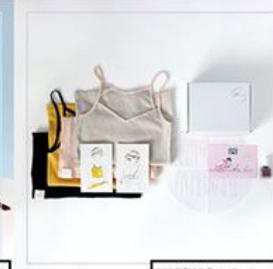
2018年2月のギフト

EMILY WEEK x KUPPLEE x She isで開催した、オーガニックコットンのスベ
ットルなミニクリップシューズ、製菓家・藤巻知子さんの書き下ろしエッセ
イ、6Qさんのリアリアリズムほか



2018年1月のギフト

どんだ林梨さんがデザインした巾着型の「まともな美学ポーチ」、元氣にな
るCHAのメッセージ入りの手鏡、大島智子さんの作品、限定色ネイル、



2017年12月のギフト

たなかみさきさんの「くやしいキミニソール」(リバーシブル・24枚)、
高木あずさとじんもしごさんのポストカード、渡島えまさんの小説ほか、わた
しとあなたを繋ぐもの



2017年11月のギフト

小林エリカさんによる限定版、新作特撮、塩川つみさんのお茶、オーガ
ニックコットンのスヌード、やわらかい世界に包まれるグッズたち



個人的なことは政治的なこと

1960年代以降のアメリカにおける学生運動
および第2波フェミニズム運動におけるスローガン。

個人的な経験とそれより大きな社会および
政治構造との関係を明らかにしようとする言葉

Feminism is for Everybody

Passionate Politics

bell hooks

フェミニズムはみんなのもの

情熱の政治学

ベル・フックス

堀田 碧 訳

 etc.
books

フェミニズムはみんなのもの 情熱の政治学

ベル・フックス 堀田碧 訳

アメリカ20世紀後半のフェミニズム運動の流れを概観しながら、その運動の再生を願って書かれた名著。

フェミニズムとは、
「男性を敵視」した「女性だけのためのもの」ではなく、
「性差別をなくし、性差別的な搾取や抑圧をなくす運動」
である。

人種とジェンダーのこと、暴力をなくすこと、
女らしさや男らしさのこと、身体のことについて考えることは、
性差別だけではなく、人種差別や階級主義や帝国主義について
考えていくことにつながっていく。

インターセクショナルリティへの気付き

me and youの立ち上げ

会社・メディアを立ち上げるときに、
ホワイトボードを使って下記の内容を付箋を使いながら書き出しました。

自分が個人的に
今課題に思っていること・
もっと考えたいこと

今、世の中で
課題とされていること・
もっと考えるべきこと

個人的な出来事と、社会で起きていることは、決して切り離されない。

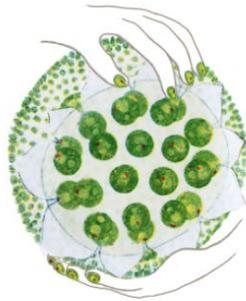
書き出していったうえで
「具体的なトピック」と「大切にしたい価値観」
が浮き彫りになってきました。

そのうえで、「大切にしたい価値観」を中心に
6つにまとめたのが、次ページで紹介する
「わたしたちの6つの灯火」です。

6つの灯火

この場所を通して大切にしたいこと、考えを深めていきたいことを「6つの灯火」として掲げています。
この考え方に共鳴しあう方々と場をつくっています。

<https://meandyou.net/about/>



1. わたしとあなたで対話する

「個」と「個」の対話を重視します。社会に規定された枠組みや表面的な決めつけ、あるいは思い込みで他者をジャッジしそうになったら思いとどまりたい。相手を冷笑したり、脅かしたりせず、安心して話せる場所をつくりたい。物理的な距離に制限されず、属性をこえて、大切なことを話せるかもしれない「あなた」に出会えるように。

2. 自分を尊重する、他者の個も尊重する —凝り固まった概念に立ち向かう個人的な声に耳を傾ける—

一人ひとり異なる個人の声を尊重することが、大きな声や、どちらか一方方向に強制的に従わせるような概念に立ち向かうことだと考えています。そのため、まず、自分と他者のどちらの声にも耳を傾けられる状況と関係を重視します。

3. 途中、過程、迷い、複雑さ、曖昧さの肯定

白か黒かのどちらかではなく、その間にある無数のグラデーションに目をこらしていきます。わたしたちは誰もが変化する過程であるから、断定ではなく、可能性の発見を積み重ねたい。短期的ではなく中長期的な時間軸でものごとを捉えたい。複雑な世界を複雑なまま捉えることは、一人ひとりが自分自身のままで、居心地よく生きていけることにきつとつながります。

4. 問い直し、結び直していく

個人を苦しめる性質を持つ、凝り固まった常識や旧来的な制度やルール。既得権益によって変化が防がれていないものや、時代にそぐわない断定的なものの見方。それらをときほくして、硬直した関係や社会をゆるやかに結び直してゆきます。

5. 心を死なせず、手を取り、支えあい、 社会で生き延びる

生き抜く過程で、助けや支えが必要になる場面が、きっと誰にでも訪れます。もちつもたれつの精神で、手を差し伸べ、支え合う仕組みの在り方を探ること。ひとりでも入りやすく、居心地がよく、「この場所は自分にはもう合わない」と感じたら抜けやすく、そして別の場所が見つかるようなメディア・コミュニティをつくるのができたなら。この場所だけが正解だと思いつくことなく、自分には選べる罪が無数にあるのだという心強さに包まれるはずで。

6. 自分の気づきを出発点に、少しずつは じめられる学びのかたち

日常で抱いた疑問や違和感をもとに、小さなことからでも一人ひとりが学びはじめるきっかけをつくりたい。「学んでいいんだ」と思えるように。自らの気づきによって導かれた学びは、自分自身を柔らかく変化させ、得られた複合的な視点は変化し続ける世界を生きる味方になるのではないかと思います。